

フィンランドにおける小学校の保健学習

小林 真衣 小浜 明

キーワード：保健学習,小学校,フィンランド

Health Education of Primary School in Finland

Mai Kobayashi Akira Kohama

Abstract

This study aims to explore the ideal condition of Health Education in Japanese primary schools. Finland's Health Education curriculum and primary school textbooks offer positive examples of education design for Japan and other nations. Therefore, I translate and elucidate two issues. The first issue is the health education portion in the textbooks of three subjects, namely "Environment and Nature," "Biology and Geography," and "Physics and Chemistry" that were launched by Finland's state education commission as part of the "National Core Curriculum for Basic Education 2004." The second issue is the Health portion in the "Environment and Nature" and "Biology and Geography" textbooks for Years 1 to 6 of primary school.

From the result about Finland's National Core Curriculum, every health unit was categorized into three parts (Personal ⇔ Others, Object ⇔ Society, and Environment) and their relationships. Otherwise, every health education module was very scientific. The study of Finland's Health Education can help Japanese Health Education improve.

Key Words: Health Education, Primary School, Finland

目次

- I. 緒言
- II. 研究目的
- III. 方法
- IV. フィンランドの教育制度及び教育課程の基準の概要
- V. フィンランドにおける小学校の保健学習の概要
- VI. 保健学習に関わる教科書の構成とその概要
- VII. 日本の保健学習における示唆
- VIII. 今後の課題
- 引用文献及び参考文献

I. 緒言

日本の保健学習は主に米国の影響を受けている¹⁾。そのため、近年においても保健学習の検討の関心は米国に向けられており、欧州にはほとんど目が向けられていない。欧州の保健学習も多様であるが、フィンランドは大学入学資格試験においても世界で唯一保健科目を入試科目に取り入れている国である。保健科を全受験生が受験可能な入試科目として設定している国は、フィンランド以外にはない²⁾。

現在、日本の小学校の保健学習は教科「体育」の中で行われており、「G 保健領域」にその教育内容が示されている。平成 10 年の学習指導要領では、これまでの第 5・6 学年に加えて、新たに第 3・4 学年に保健学習が設けられ、平成 20 年の学習指導要領改訂でも同様の位置づけとなっている。しかし、第 1・2 学年では保健学習が行われていない。そこで、本研究においては、フィンランドの保健学習に目を向けてみたい。

なお、保健学習と保健教育の関係については注) 参照のこと。

II. 研究目的

これまで、フィンランドの保健学習に関

する研究は、高橋・小浜（2012）³⁾、小浜（2014）⁴⁾、小林・小浜（2015）⁵⁾が行っているのみであり、これらの研究でもフィンランドの小学校で保健学習が行われている知見は得られているが、その詳細は明らかにされていない。

本研究の目的は、日本の小学校の保健学習の在り方を探索するために、フィンランドの小学校保健科の教育課程と教科書の内容を明らかにすることにある。フィンランドの小学校での一貫した保健学習を明らかにすることは、日本の教育課程と教科書の在り方に重要な示唆を与えるものと考えるものである。

III. 方法

本研究では、以下 2 種類の資料の翻訳及び整理を行った。

- 1) フィンランドの国家教育委員会が作成し『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』⁶⁾の「環境と自然」「生物と地理」「物理と化学」における記述
- 2) Sanoma Pro 社が出版している教科書『Jäljillä』⁷⁾の「環境と自然」「生物と地理」の記述

なお、今回は「物理と化学」の教科書が入手できなかった。このため、この教科書の保健科に関する記述の翻訳は実施していない。

V. フィンランドの教育制度及び教育課程の基準の概要**1. 基本的な教育体系**

フィンランドの基本的な教育体系は、就学前教育（保育所／就学前学級）、基礎教育（義務教育第 1 学年から第 6 学年：小学校、第 7 学年から第 9 学年：中学校）、後期中等教育（高等学校／職業専門学校）、高等教育（大学／高等職業専門学校）と大まかに 4 段

階に分けられている。(図1) 授業料は公立・私立に関わらず、就学前教育段階から大学院に至るまで全て無償で行われる。1999年より基礎教育は7歳から16歳の9年間一貫の総合学校で行われている。それ以前に1年間、保育園または就学前教育級(プレスクール)での就学前教育を受けることができる。

基礎学校での9年間の義務教育終了の後、多くの生徒は高等学校か職業専門学校へ進学する。その進学率は約98% (2009)である。後期中等教育学校への入学試験はなく、9年間の成績を元に希望校へ願書を出し、特に最終学年での成績によって合否が決定される。基礎学校には、進路選択に迷い納得のいく学校への進学ができなかった場合等のために任意の第10学年も用意されているが、そこへ進む生徒はごくわずかである。

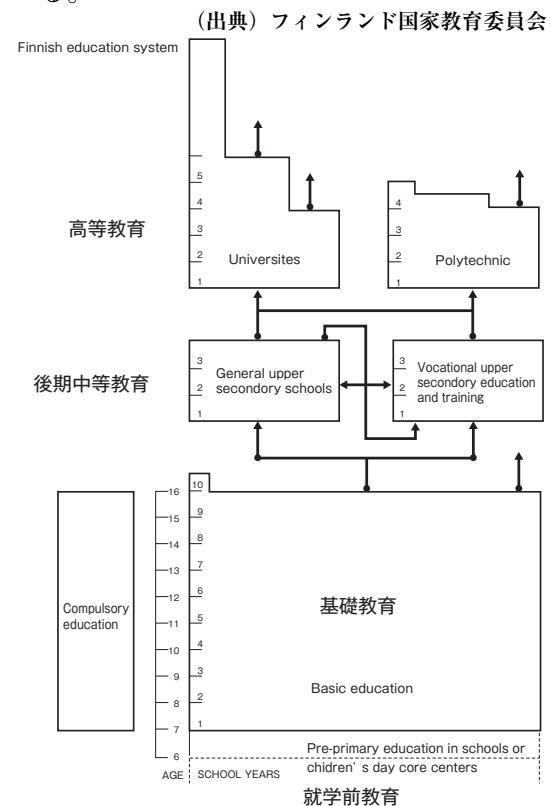
後期中等教育学校の、特に高等学校教育では無学年単位制を採用しており、日本の大学のような方式で履修科目を決め、学習する。いわゆる主要教科は必修となっており、それぞれに基礎コースが必修として設置されている。その上で各教科に細分化された上級コースが選択科目として設置されている。

高等学校へ進学した生徒の目標であり、終着地となるのは大学入学資格試験である。大学入学資格試験とは高等学校卒業認定のための試験でもあり、大学進学のための基礎資格ともなる。各大学の入学者選抜の一基準として使用される。もちろん職業専門学校へ進学した場合でも、高等教育機関へ進学の道が開かれており、OECDの調査によっても、高等教育進学率は73% (2009) である。

2. 教科書制度

フィンランドにおいては、教科書の検定制度はなく、自由発行制度の元、民間の出版

社が教科書の発行を行っている。また採用についても各学校、教師(父母の参加を得る)による自由採択制度を採用しているため、各出版社や教科書会社は、新しい教科書が発行されると、各学校へPRに出かけることも許可されている。学習指導要領で各教科の目標や指導上の留意点が詳細に示されており、それに対応した教科書が中核教材となっている。教師がより使用しやすくなるように、常に教師の意見を取り入れて、教師用指導書や教科書の言直しがなされている。



© Finnish National Board of education

図1 フィンランドの教育制度

3. 学年配当の授業時数の規定の有無

表1は基礎教育における授業時間の分布である。保健は第1-6学年及び第7-9学年の1年間における週ごとの授業に統合されている。第1-4学年の保健は「環境と自然」、第5-6学年は「生物と地理」、「物理と化学」の教科に含まれる。

表1 基礎教育における授業時間の分布

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
母国語	14		14			14		14		42
外国語(A言語)					8		8			16
外国語(B言語)								6	6	
算数・数学	6			12			14			32
環境と自然										
生物と地理	9				3		7		7	31
物理と化学							3			
保健						6				11
宗教・倫理							5			10
歴史・社会							3			
音楽					4			3		
美術					4			4		
工作					8			7		
体育	26					30			10	56
家庭科								3	3	
道路指導(キャリア教育)								2	2	
選択科目									(13)	13
自由選択(A言語)							6		6	12

なお、フィンランドの教育制度及び教育課程の基準の概要は高橋悠（2012）⁸⁾の引用である。

V. NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』の内容構造

1. 配当学年

小学校第1学年から第6学年で合科的に理科に保健科の教育内容が含まれている。第1学年から第4学年は「環境と自然」の中で第5・6学年では「生物と地理」「物理と化学」に保健が含まれている。

2. 保健学習に関わる概要、目標、教育内容、到達目標

表2は『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』の目次において、7.0.7「環境と自然」、7.0.8「生物と地理」、7.0.9「物理と化学」の各科目の概要、目標、教育内容、到達目標を翻訳しましたものである。

なお、ここでの目標、教育内容、到達目標の分析は保健に関する内容を抜粋したものである。

3. 保健学習に関する内容構成

『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』より、フィンランドの保健科の教育内容は、「環境と自然」、「生物と地理」、「物理と化学」の教科

の中に含まれている。フィンランドの内容構成は図2のとおりである。各単元の内容が低学年より三者（個人↔他者・対象↔社会・環境）の相互作用関係で構成されている。一方、日本の内容構成は、図3の健康成立の3要因（主体・環境・行動）に基づく項目立てと、個人の生活空間の同心円的拡大（個人→家庭・学校→職場・社会）による配列によって構成されている⁹⁾。

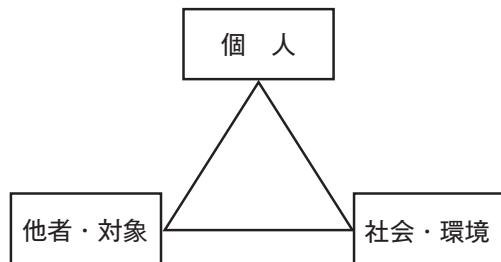


図2 フィンランドの教育内容
小林・小浜（2016）作成

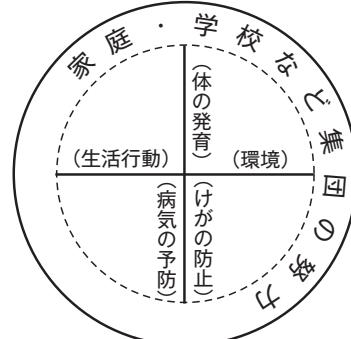


図3 小学校の内容構成
(出典) 保健の授業づくり入門p93より

VI. 保健学習の内容構成に関する教科書の構造

フィンランドの保健学習は第1学年から科学的で専門的な内容を教える工夫がされている。また、低学年から（個人↔他者・対象↔社会・環境）で保健科の教育内容が構成されていることから、教科書にもこの構造が反映されている。例えば、第1学年では、交通安全で標識を覚えるうえで、環境の中でどのように体験するか、命のはじまりでは、自分の命は他者である親の体内でどのように成長するのか、また、指紋で他者と

フィンランドにおける小学校の保健学習

表2 保健の教育課程『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』

学年 科目名	第1学年-第4学年 環境と自然	生物と物理	第5-6学年 物理と化学
各科目的概要	<p>「環境と自然」は生物、地理、物理、化学と保健の統合された科目群で構成されている。</p> <p>教育の中心に、持続可能な開発が含まれている。教授目標は自然を理解し、都市環境、自分と他人、人間の多様性、健康と病気について児童に知ってもらう。</p> <p>環境と自然の理論は調査に頼り、出発点は児童が持つ知識、能力、経験であり、物事・現象及びペイントは児童の環境に開拓した疑問を中心とした学習法である。教授は児童の経験の助けを取り、児童と自然との環境の良好な関係を発展させる。</p> <p>「環境と自然」の学習方法は、児童に必要な発育レベルに基づき児童が選択し、野外作業のような方法で学習することができる。環境と自然学習に開拓する標準は、教科課程の単位)によると周囲の世界、児童、社会一員としての行動を誤ることにある。これらのモジュール(教科課程の単位)を学ぶことは児童が環境を保護し児童自身と環境の相互作用を理解するのに役立つ。</p>	<p>生物学は生活と生活で起きた現象を調査した。児童は同じ人間であることや生物と生物が繰り返す相互作用を理解するようになること、また多様な生物を保護し正しく認識するよう図示された。生物学の教授目標は、人間と自然の一部は同様であることを教えるよう児童を導く。野外教育において自然と環境を観察し、学ぶことで児童は貴重な経験をする。生物学は研究を基にしてした学習でなければならぬ。その結果は野外と教室での授業を指導する。</p> <p>地理は世界と世界の多様な地域に属する現象をさす。その教育は人間の活動と自然界に開拓した現象や異なる地域で起きる現象の相互作用を児童に理解し役立たなければならない。地理の教授目標はヨーロッパ全体やその他の世界のよつにフィンランドから世界へと児童の概念を拡張させ、児童は世界の自然文化及び環境の豊かさそれに感謝することで学びの経験を得る。地理を教える時は豊文化の寛容と国際主義の基礎を創造しなければならない。</p> <p>保健料は科学を用ひ児童を触発し、良好かつ安全な環境の大切さを考え彼らの環境を保護し責任ある行動をとるようにならなければならぬ。</p> <p>保健料は児童の体験の中で安全と健康の観点を調査することが教授に組み込まれている。</p>	<p>物理と化学の出発点は、予備知識と能力、経験であり、教材や教具を用いて自然現象の観察や調査を行う。これらから、物理と化学の基本的な概念や法則は発展する。</p> <p>教授は科学を用ひ児童を触発し、良好かつ安全な環境の大切さを考え彼らの環境を保護し責任ある行動をとるようにならなければならぬ。</p>
保健に関する目標	<p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境と交通は学校で学んだことに従い、それらの環境の中で自分自身を守れるようにし、安全に行動することを学ぶ ・自然を守り、天然資源を節約することを学ぶ ・精神的、身体的な自己理解や他人を尊重すること、個人として他人を尊重し社会的な技量を発展させる ・健康や病気、健康増進に関する語彙や方法などの概念を学び、健康を促進させるため選択することを学ぶ 	<p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類の構造や生活、人類の生活環境に加え環境適応について知る ・人々は環境の自然に頼り、自然を食糧生産にしていることを理解するようになる ・環境にやさしい方法で行動し、彼らの身の周りの環境と自然を守るために環境(テラゾー)を身につける ・人体解剖学、生命機能の成長と発育及び人間の健康 ・人體の主な構造及び主な生命機能: 生殖: 念書期は社会によって成長と発育は各個人に個人の過程があることを尊重し、人間の性的傾向を理解し、思春期の特性であることを知る ・人間の多様性と社会の相互作用が成長や発育と関係する問題を考える ・自分の行動に責任を持ち、他人を悪いやることを必要とする ・人間の活動は地球が提供する環境に頼っていることを理解する 	<p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業と移動の際の安全について与えられた指示に従い自分自身とそれらの環境を保護する。 ・薬物乱用の危険について理解する。
保健の教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ●生活と生活環境 ・さまざまな生活環境と環境での生物の適応 ・食品の出所と生産 ●自分の身近な環境や地域、人間の生活環境としての世界 ・身近な環境 ・地域及び州での自然条件や景観、都市環境と人間の活動 ●自然現象 ・音と光に開拓する現象、聴力と视力の保護 ●私たちの周りの物質 ・物質と材料は日常生活の一環である: 物質と材料のリサイクルと保全利用 ・空気の性質、燃焼や火災安全 ・特性および物の状態変化: 水の利用: 自然の中での水の循環 ●わたしと健康 ・人體及び人の成長段階と発育に関する一般用語 ・毎日の健康習慣と自分の健康を考える ・人間の病気、子どもの一般的な病気: 緊急時の簡単な応急処置と行動 ・辛福と精神的健康のために感情の認識と家族及び友情の相互作用が重要 ●安全 ・いじめや暴力の防止、身体の不可侵權を尊重し、学校での安全、交通事故における危険な行動と状況を回避し、自宅と余暇時間の事故を回避する ・お金の使い方や他人の所有物を尊重し、約束やルールなど良いマナーで他人を配慮する 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物と生活環境 ・農園製品に関する食品の出所と生産 ●解剖学、生命機能の成長と発育及び人間の健康 ・人體の主な構造及び主な生命機能: 生殖: 念書期は社会によって成長と発育は各個人に個人の過程があることを尊重し、人間の性的傾向を理解し、思春期の特性であることを知る ・人間の多様性と社会の相互作用が成長や発育と関係する問題を考える ・自分の行動に責任を持ち、他人を悪いやることを必要とする ・人間の活動は地球が提供する環境に頼っていることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ●ばかりと仕組み ・移動の際の安全と事故予防 ●私たちの周りの物質 ・リサイクル品の原点と利用、生活環境に属する製品や材料: 製品や材料の安全な使用 ・酔わせる効力のある物質及びこれらの物質が与える有害な影響
到達目標	<p>第4学年までの到達目標</p> <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食材はどこからきて、どこで製造されているかを知る ・児童の地域及び州の自然条件と人間活動を記述する方法を知る ・私たちの周りの自然現象と物質 <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランプ、ワイヤー、バッテリーを使用して簡単な電気回路接続する方法を知る。電気回路を家庭で使用していることを理解する; 使用する電気は危険と関連している; 電気機具を安全に使用する方法を知る ・筋力と脳力を測定する方法を知り、火事から怪我を防止すること、火災に応じて避難する方法を知り、水の状態変化、自然の中の水の循環を説明する方法を知る ・ろうそくや木の燃焼によって別な物質や物質交換するこれを理解する; 火引性の高い材料について知り、携帯消火器を使用する方法を知る ・様々な物質とその特性や利用率について知っており、医薬品や洗濯で使用するクリーニング化合物、溶剤、タバコ/アルコール製品について有害な物質が家庭に存在することを知る。 <p>●私と健康</p> <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成育と発育、命の違いや、人体の主な生体機能と最も重要な器官の名前を覚える ・十分な睡眠と栄養、栄養、定期的な食事、毎日の運動、学校や家庭での口腔衛生、傷の手当について正しい心構えが毎日の実践や習慣が健康リズムを促進することを知る。 ・集団における礼儀的な行動について基本のルールを知り、児童たちはさまざまな感情の名称を認識し、感情表現を抑制することができる。 ・一般的な子どもの病気、病気の症状や治療について; 児童は医薬品を使用する上で基本的な決まり、簡単な応急処置の方法を知り、助けを求めるなど、どのようなものが危険を与えるかということを知る。 ●安全 <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや暴力のさまざまな特徴を記述することを知る; 児童は身体的不可侵權に対する個人の権利について許容と拒絶の違いを認識し、必要に応じて児童は自身のために誰が学校や地域社会で助けてくれるかを知る。 ・自分の年齢に応じて許される活動と許されない活動があることを知る 	<p>第6学年までの到達目標</p> <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる脊椎動物の集まりを識別し、最も一般的な哺乳類、鳥類、魚類の動物が環境にどのように適応するか例をえきる ・種の植物が自分自身の食糧となることを理解し知る; 例を用いて、生む食物連鎖の原理を説明する方法を知る ・例を挙げながら人間は自然に依存するのか: 児童たちは基本的な食品の供給源を説明することができ、理解することができる ・身近な自然環境と居住環境がどのように維持、保護されているか例を挙げることができます <p>●解剖学、生命機能の成長と発育、人間の健康</p> <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の構造と成長機能の基本的な側面について記述する方法を知る ・女子と男子の思春期と性的な発育の変化を個人の兆候に合わせて与え、自分自身の成長に関連した成長や発育の変化を説く方法を知る ・どのようにして感情表現を抑制するのか例をえ、他人の視点から物事を説くことができ児童たちは人々の感情表現がどのように異なっているのか例を記述する方法を知る <p>●世界の人の間の多様性と生活環境</p> <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界は異なる気候や植生帯を持っていることを知り、世界の気温と降水量などのように異なる気候条件の例をえ、方法を知り、人間の活動、特に農業や住宅での生活にそれが影響を及ぼすことをや、環境の異なる人間生活を説明する方法を知る ・都市の建設、産業建設、などの方法を人間の異なる領域から例をえする方法や、過放牧や森林の収集は環境に変化を引き起こしたことを知っている ・自国と外国の文化的特徴を特定する方法を知る 	<p>第6学年までの到達目標</p> <p>児童は以下のことをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気の組成と大気ガスの化学記号について知り、生活を維持するために大気の重要性を理解する ・児童の環境から、物質と商品の生活サイクルや物質と製品の酸素度の特性を調べる方法を知り、安全に使用する基本的な事柄を知る ・なぜ有害な物質(タバコや酒や麻薬)があり、危険を伴うに使用があるのか例をえ、タバコや酔わせるものの(酒や麻薬)についてポイントを知る

表3 教科書『Jäljillä』の目次

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
環境と自然					
○学校が始まる 環境 道路標識 安全な旅を 私と他人	○さまざまな生物 生活と微生物 生物の分類 生産者と消費者 堆肥の成分を分解させる 生物が食物連鎖を形成する	○中庭テラス「グラン」の植物 校庭 開心地の良い中庭 庭の生息地 植物は異なる部分がある 仲良し、細胞の識別に役立つ 多くの植物が花を持っています 多くの植物は葉から広がる おなじみの植物 分化した一部)	○田舎は重要な 収穫時間 田舎 食作物栽培 家畜 乳牛 自然で純粋な食品 おなじみの植物 分化した部分)	よそそ、生物と地理の学びへ 生物と地理 観察は科学調査の重要な一つである ○フィンランドの森林や沼地 フィンランドにはさまざまな森がある 農耕地の中が若い 自然で純粋な食品 森林と沼から恩恵を受ける 世界に広がった森林がある	自然科学は研究が行われている この推定的研究
○秋の森 森の中 森の木 森の果実 アリ タバコ 紅葉 冬の準備 ○人間 私と友達 人生の段階 あたらじい命の始まり 体の各器官 骨格 筋肉 呼吸 心と脳 脳と感覺 消化器 空気 ○冬の自然 冬がきた 鳥の巣 リス 野ウサギ キツネ 冬ごもり冬眠 地球上の生命 ○学習 水 物質の状態 空気 光と熱 音声 ○私たちは海に行く 潮 カエル 海上で 鳴 海面下 ○春の植物 植物の一部分 春の花 植物の収穫 ○用語集 冬油標識 すごろくゲーム	○野生の給餌 庭で 庭園 食品のじめいも 町外から移動 農場 ラップランド キノの旅 ○地図と天気 異なる方向のアイテム 平面図 航空地図 コインパスと地図記号 さざざまな地図 フィンランドの地図 天気予報 気象情報とそれとの観測 ○空間と時間 宇宙は星に満ちている 太陽は星である 惑星は太陽を周回する 地球は惑星である 月は地球を周回する 季節 一ヶ月 時刻 宇宙探査 ○私たちが合理的に消費する 岩盤や土壠 木材 原料から製品まで リサイクル 商品は廃棄物を発生させない エコロジー 電気機械が動く 私たちが電気を節約する 自然の中の電気 ○夏が来る 公園や邸宅 アリの巣 草原の蝶 イナゴの一種 蜘蛛 勉強嫌い ○昔の生活 小屋 街 学校 国内 ○用語集 太陽系の惑星 庭の植物 殺虫剤 インフルエンザゲーム	○動物として実験する おなじみの自動車 小学生の交通 交差点では注意して下れ 安全に自動車に乗る レバーは仕事を楽にする バスは曲がる 摩擦は動きに対抗する 自転車の回転 建築耐性 ○地図を調べる マップは多くの情報を持つ 異なる環境 両辺の地図 地図 ガイドを使用して 地図の地形を使用する 地図上のフィンランド 世界地図 ○冬の生活 冬の日 木の休息 冬の基本植物 すべての動物は見れない 多くの動物が働く おなじみの動物 分化した一部)	○他人に配慮する 一休さんは頑張らない 友人は重要 感情 ルールが助けてくれ 人の一生を生きる 毎日の健康管理 健康に食べよう 誰かが苦しみ 家庭支援 道徳での危険な物質	○人間と健康 医療者は変化のときである 人間の生命的な絆 世話をするとために骨格がある 動物肉 血液は体内を循環する 酸素二酸化炭素 体中の食べ物旅行 通勤時の活動と他割 現れる必要な日用品 開拓で危険な物質	巨大な巨大なアジア アジアは世界最大の大陸である アジアの住民 西南アジアの沙漠や山 中央アジアの草原に北極海 東南アジアの対照が密に生息する 東南アジアの熱帯気候 人口密度の高い東アジア アジア諸国・インド・日本と中国
○用語集 冬油標識 すごろくゲーム	○私たちがフィンランドに住んでいる フィンランドは北半球に位置する フィンランドは北半球に位置する フィンランドは北半球に位置する ヘルシンキはフィンランドの首都である フィンランドはフィンランドの風景を愛した 電気の必要性 電気回路 安全な電力 磁石には力がある 異なる色の光 光の直接通貨 声の振動 冷たい、熱い、暖かい その時点感覚！ ○バルト諸国を知る バルト諸国の情報を探る 正確な地図上 バルト諸国 異なる生活 エスにア共和国 ソニア共和国 ソニア共和国 ○火災と風 重要な空気 空気の物質 風は空気を動かす 物質は燃焼に変わる 火災に気をつける意図 航空 分化した部分)	○ヨーロッパー私たちの大陸 地図上のヨーロッパ ヨーロッパの異なる気候 ヨーロッパの多様な植物 民族的組織 ヨーロッパで産業で生きる、産業とサービス ノルウェー 欧洲連合 ヨーロッパの7つの領域 島国イギリス フランス料理とワイン ブーケのムクア 山岳ブルガリア 広大なロシア ○植物と植物界 植物のベースは広い範囲にある 植物細胞で構成される 最も植物が光合成を行う 植物が増えて広がる 種子成長を調べる 植物界はさまざまな植物を構成する 植物は微生物関係の広い範囲に生 んでいる 植物種の識別 回収した種の知識を收集 春から初夏のタイプ	○生物と動物 生命の誕生 生物 魚類、両生類と爬虫類 鳥 哺乳類		
	○木を調べる 春が近づく 安全生の確保 水は重要 物質の状態 水の問題 水は異なる性質を有している ○水の岸部 ビーチで フィンランドの内陸水域 バル 嶺 砂浜の植物 水面下に群がる 魚の構造 魚の一生 水鳥 私たちが水域の生活をする おなじみの動物 分化した部分) 鳥の旅 ○用語集 フィンランドの地図	○火災と風 重要な空気 空気の物質 風は空気を動かす 物質は燃焼に変わる 火災に気をつける意図 航空 分化した部分)	○用語集 ○他の欧洲諸国の基礎知識 ○ヨーロッパの地図		

のちがいを学ぶ。第2学年では、リサイクルで自分の身近なゴミから社会との関わりを学ぶ。第5学年では、目の構造を学んだうえで、視覚障害者の立場から社会について学ぶ。これらのことから、教育内容は系統的かつ科学的であり、学びが同心円的配列ではなく、三者の関係で常に構成された構造になっている。

なお、下線部が引かれているところは、保健に関する記述である。

以下は、「環境と自然」第1学年の教科書の保健の内容に関する記述部分である。

This image is a collage of 12 panels from children's educational books, primarily in Finnish. The panels cover various topics including:

- Top Left:** "IHMINEN" (Human) and "Minä ja koulukaverini" (Me and my school friend). It features a boy's profile and a drawing of two children.
- Top Middle:** A panel about hygiene, showing a boy and girl washing their hands. Text includes: "Hyvä koulukaveri... ottaa töiden huumoosi. On tärkeää, ettei ketään kuuta." (A good school friend... takes care of hygiene. It's important that no one gets sick.)
- Top Right:** A panel about bones. It shows a skeleton and text: "Muutamalle ihmiselle tulee syrjäytyä itse". (For some people, it's fate to have a bone disease.)
- Middle Left:** A panel about friends. It shows two children and text: "Terveystietoja! Terveys on tärkeintä elämässäni. Minä olen terve." (Health information! Health is the most important thing in life. I am healthy.)
- Middle Middle:** A panel about bones. It shows a boy and girl and text: "Pieniä ihmisiä. Pieniä ihmisiä ovat myös minä ja sinä. Tässä on minun luurani. Luurani on minun vartalo, joka suojailee minua ja auttaa minua liikkumaan." (Small people. Small people are also I and you. This is my skeleton. My skeleton is my torso, which protects me and helps me move.)
- Middle Right:** A panel about bones. It shows a skeleton and text: "Kalkkiliuost lähdeihin muodostavat luurangon. Pääkallo suojaa aivoja. Selkäreuna pitää ihmisen pystynyt. Sydän tuottaa verisuhteita ja keuhkoja. Rintakuori on ihmisen pääla. Se on yksi ihmisen tärkeistä elinvoiteista. Luute voi välttää röntgenkuvaen avulla. Sydämeen ja sen ympärille maistutetaan. Ne vauvittavat luurantaa. Muista matobuttenttiä pitää! Pieni ja kyrökkä. Kylmäinen koste luodin lähdet. Tunnistetaan ja raportoidaan."
- Bottom Left:** A panel about bones. It shows a boy and text: "人々 私と友達" (People - Me and Friends).
- Bottom Middle:** A panel about bones. It shows a boy and text: "その他の良い学校友達を受け入れる。それは誰もいわないことが大事。" (Accept other good school friends. It's important that no one says anything bad about them.)
- Bottom Right:** A panel about bones. It shows a skeleton and text: "骨格 すべての骨が一緒に骨格を形成する。 頸椎骨 頸椎骨は脳を保護する。 背骨 背骨は人間の直立を維持する。 助骨 助骨は心臓と肺を守る。 人間の関節は曲がる。 大腿骨は人間の最も長い骨である。 骨はX線画像を用いて調べることができます。 乳製品を沢山食べ、飲む。これは骨を強化する。 今、国旗を振って!" (Skeletal system. All bones form the skeletal system together. Cervical vertebrae protect the brain. Spine maintains human upright posture. Ribs protect the heart and lungs. Human joints bend. Femur is the longest bone in humans. Bones can be examined using X-ray images. Eat and drink lots of dairy products. This strengthens bones. Wave the flag now!)
- Second Row Left:** A panel about bones. It shows a boy and text: "名前: Terho Tammi 年齢: 7歳。 年齢: 7歳。 私の色: 青。 紛失: 明らか。 学校での好きな科目: 環境と自然。 Lentoopiskelija: Jyväskylän yliopisto"
- Second Row Middle:** A panel about bones. It shows a boy and text: "将来の夢: 繁栄の建築家。 我が家の隣の建物。 私の好きな食べ物: ピースープ。 私の願い: 野生の虎を見る。 すべての人々の指紋は同じですか?" (Future dream: Successful architect. Next door building. My favorite food: Peasoup. My wish: To see a wild tiger. Are all people's fingerprints the same?)
- Second Row Right:** A panel about bones. It shows a skeleton and text: "あなたはどここの乳製品が好き? 塵いたり巻き込んでみよう。どうやって多くの骨を身につけることができるですか?" (Which dairy product do you like? Roll it up or wrap it. How can you get many bones?)
- Third Row Left:** A panel about bones. It shows a boy and text: "Kun nainen on tekemässä, hänen kohdussaan kasvaa rauhaa. kohti napansyora sikiöö Kohdussa olevaa vapaaa saattaa näkyä. Se saa aiduttaa ravintoa napamuurion kautta."
- Third Row Middle:** A panel about bones. It shows a family and text: "Pieni lapsi tarvitsee paljon huolehtimista ja hoitoa. Mitä asioita pääte tarkoittaa? Reissu tai kierros. Varsinaisesti on tarkoitus vapaata aikaa."
- Third Row Right:** A panel about bones. It shows a skeleton and text: "Lihakäytö on kaikilla kehossamme. Ne perttivät ja liikuttavat tuota. Reissut eivät liikkuvat aina. Luokka voidaan tutkia avulla. Pätki. Rulli. Mies leijuu ja seurailee."
- Fourth Row Left:** A panel about bones. It shows a pregnant woman and text: "新しい命のはじまり 女性が妊娠している時は彼女の子宮の中で赤ちゃんが育つ。 kohlu 子宮 へその緒 uusia 胎児"
- Fourth Row Middle:** A panel about bones. It shows a pregnant woman holding a baby and text: "人間はどのように始まる? 子どもを作るためには母親と父親が必要。母親の体内に卵子がある。精子は身体のどこへ行くのか?" (New life begins. When a woman is pregnant, the baby grows in her womb. Womb, fetus, birth canal)
- Fourth Row Right:** A panel about bones. It shows a skeleton and text: "筋肉は私たちの体に動かされている。それらは覆って動き。人間はそのため筋肉の型は動く。ハアッ、ハアッ! この種目は私には合わない。"
- Fifth Row Left:** A panel about bones. It shows a pregnant woman and text: "小さな子どもは世話を愛情を沢山必要とする。なぜ人間に「へそがあるの?」
- Fifth Row Middle:** A panel about bones. It shows a pregnant woman holding a baby and text: "小さな子どもが必要とするものは何がある? 猫いたり巻き込んでみよう。あなたの生年月日を見てみよう。日、月、年、時間"
- Fifth Row Right:** A panel about bones. It shows a skeleton and text: "あなたが実際にしたい時に、複数の筋肉が動く。しかし、自分で使われる筋肉がある。たとえば首筋器はいつも動いている。" (When you want to do something, many muscles move. But some muscles are used. For example, the neck muscle always moves.)

「環境と自然」第1学年 教科書の保健の内容に関する記述部分

Hengitys ja ihon hoitaminen

人間は呼吸で空気を吸い、酸素を体内に運び、二酸化炭素を排出する。酸素は細胞でエネルギーを生成するため、酸素供給が不足すると、筋肉や脳などの機能が低下する。

Aivot ja aistit

脳は情報処理の中心で、感覚情報を統合して意思決定を行います。脳には視覚、聴覚、触覚などの機能があります。

Abien vieroille

アビエンの心臓と血管

心臓は血液を全身に運ぶポンプです。心臓は筋肉でできています。

呼吸

人間は肺で空気を吸い、酸素を体内に運びます。酸素は細胞でエネルギーを生成します。

どこから酸素はくる?

緑の植物は空気中の酸素を生成します。酸素を供給する植物の中でも、木本植物が最も多く、これが「酸素の森」と呼ばれます。

脳と感覚

脳は情報処理の中心で、感覚情報を統合して意思決定を行います。

どうやって情報がつま先から脳へ移動する?

脳は情報処理の中心で、感覚情報を統合して意思決定を行います。

Sydän ja ateriat

心臓は血液を全身に運ぶポンプです。心臓は筋肉でできています。

Kuuma ja kylmä

体温調節は自律神経によって行われます。体温が高すぎると、汗をかいて体温を下げる反応が起こります。

Uunissa ja keittiössä

食事はエネルギー源です。糖質、脂質、タンパク質、水、ミネラル、ビタミンなどが含まれます。

心臓と血管

心臓は血液を全身に運ぶポンプです。心臓は筋肉でできています。

消化器

消化器系は食物を消化して栄養分を吸収する機能を持っています。

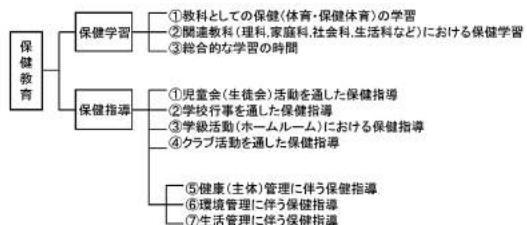
VII. 日本の保健学習における示唆

フィンランドの NATIONAL CORE CURRICULUM では、保健科の各単元の教育内容構成が三者（個人↔他者・対象↔社会・環境）の相互作用関係で構成されていた。また、教科書より、保健科の教育内容が、第1学年から系統的かつ科学的であり、学びが三者の関係で常に構成された構造となっていた。フィンランドの保健学習における教科の内容構成の構造や系統的かつ科学的な記述は、日本の保健科の教育課程の内容構成と教科書の教育内容に新たな示唆を与えるものと考える。

VIII. 今後の課題

本研究では、『NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004』による各教科の保健科教育の概要、目標、教育内容、到達目標の翻訳及び分析を行ったが、昨年 2015 年に『NATIONAL CORE CURRICULUM』が新しく改訂された。しかし、本研究においては時間の都合上、改訂版の翻訳には至らなかった。また、「物理と化学」の教科書が入手できなかったため、保健科に関する記述部分の翻訳を実施できなかっただ。今後、『NATIONAL CORE CURRICULUM 2015』と「物理と化学」の教科書の両者を比較することにより、同様な点や改訂された部分を今後明らかにする必要がある。

注) 保健教育と保健学習の関係



(出典) 学校保健学 1-2。学校保健のしくみ一領域構造-p2より

引用文献及び参考文献

- 1) 友定保博 (1997) 保健的教養の形成と学校教育, 森昭三・和唐正勝編著:保健の授業づくり入門,大修館書店:p15,24
- 2) 小浜明 (2014) フィンランドの大学入学資格試験における保健科の試験,体育学研究,59 (2) : 829 - 839
- 3) 高橋悠・小浜明 (2012) フィンランドにおける保健科の教育課程一日芬の学習指導要領の比較を中心としてー,第 59 回日本学校保健学会:pp3-37
- 4) 前提 2)
- 5) 小林真衣・小浜明 (2015) フィンランドの小学校低学年における保健学習,日本体育学会第 66 回大会 (2015 年 8 月 25 日)
- 6) NATIONAL CORE CURRICULUM FOR BASIC EDUCATION 2004,7.7 ENVIRONMENTAL AND NATURAL STUDIES,7.8 BIOLOGY AND GEOGRAPHY,7.9 PHYSICS AND CHEMISTRY : p.170-194.
- 7) Sanoma Pro 社 : Jäljillä,Kustantaja : 5.painos,2013
- 8) 前提 3)
- 9) 藤田和也 (2001) 保健的教養の形成と学校教育,前掲 1) : p92-93

